

今月の一言 NO.204

キーワード：江戸時代の子供のしつけ その1

日本は家庭教育の質が世界一高いと称賛される国でした。文化のある国として世界的に認められてきた大きな要因の一つでした。

江戸時代のしつけは「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理」でした。これがしつけの目安であり、子供の成長の段階でした。親が必ず教えな
いといけないことだったのです。3歳・6歳の「心と躰」は主として家庭の教育。

三つ心（みつつこころ）

「三つ子の魂 百までも」と言われるように、三歳までは愛情深く子供に接し、人に対する信頼感を植え付け、心の大切さを理解させる。自分が家族や周囲の人々から大切にされているという安心感・信頼感是人にとって最も基本的な要素。そのためには、まず親は子どもを抱きしめて、愛情を注ぎ、そして美しいものや自然を見せ、手本のしぐさを見せ、みずみずしい感性に訴え、見よう見まねで子どもに覚えさせていく

「子どもは親の言うとおりににはならない、親のしたとおりになる」と言われるように、愛情を持って接すること、正しく見本を見せることが大切です。

六つ躰（むつつしつけ）

六歳までに、日常生活のしぐさ・作法の基本を身につけさせるために何度も何度も出来るまで繰り返し行う。「鉄は熱いうちに打つ」と言われるように、この時期の子供に躰という1本の筋を叩き入れなければならない。脳と体を結ぶ心の糸の動かし方を、親が手取り足取りまねをさせて、スムーズに動きができるようにさせること、家庭での教育力が試される。

家庭も会社も教育！

2018年12月25日

さいのう とおる

追伸：一年間、ご苦勞様でした。来年はもっと進化する年にしよう！